

認定手数料徴収方法の違いによる比較表

	パターン①	パターン②	パターン③
	高機能発券機使用 (認定証・納付済証一体方式) (案1)	簡便型発券機使用 (認定証+納付済証貼付方式) (案2)	窓口対面販売 (認定証+納付済証貼付方式) (案3)
予約方法(当日、フィールドハウス内において受講希望するレクチャーを選択できる方法)	購入時に発券機において、受講したい時間帯のレクチャーを選択	発券機でのレクチャー受講時間帯の選択は不可。ただし、窓口(カウンター)で受講希望時間を選択することも可能(基本的には、直近の受講可能なレクチャーを受講)	窓口で認定手数料を支払う際に、受講希望時間を選択することが可能(基本的には、直近の受講可能なレクチャーを受講)
各回レクチャーの受講可能な空き人数の把握の可否	各回のレクチャーの空き人数について、随時表示可能(ホール内のモニターで確認可能)	レクチャー時間の選択が必須ではないため、正確な空き人数の確認は困難	レクチャー時間の選択が必須ではないため、正確な空き人数の確認は困難
機械操作の単純さ	選択項目が多いが、タッチパネル式で誘導	入金と人数の選択のみであり、操作は単純	—
発券・支払の速度	ロール紙に日時、レクチャー時間、QRコードなどを1枚分ずつ印字するため、発券・支払時間がかかる。	印刷済みの納付済証を指定枚数発行するのみであり、支払にかかる時間は短い。	受付スタッフの慣れによる。納付済証の発行方法やおつりの整理により効率化は図れる。
手数料の支払い	五湖FHのみで支払い	五湖FH以外でも支払可能 ※但し、各団体・施設の協力が必要	五湖FH以外でも支払可能 ※但し、各団体・施設の協力が必要
レクチャー受講希望時間変更の柔軟性	カウンターに申し出て時間変更をする必要	時間を予約していなければ、柔軟に変更可能	時間を予約していなければ、柔軟に変更可能
スタッフ数について	ほとんど発券機で実施していることから、少ない人数で実施可能	予約については、スタッフが対応する必要があり、人数が必要	支払手続き及び予約については、スタッフが対応する必要があり、多くの人数が必要
機械の不具合等により人手で手数料徴収等を行う場合	レクチャー時間ごとに販売する必要があり手間がかかる	料金徴収し、納付済証を発行するだけであり、手間は少ない	—
券売機のランニングコストについて	高機能な機械を導入する必要があるため、ランニングコストも高額となる	単純な機械を導入するため、ランニングコストが比較的安価	—